科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次

目的: 在宅療養を支える訪問看護について理解し、居宅における看護の役割を学ぶ。
目標: 1 訪問看護ステーションの概要及び活動内容を理解できる。
2 訪問看護制度に基づく看護について理解できる。
3 訪問看護の対象の特徴を理解できる。
4 居宅におけるケアマネジメントや社会資源の活用方法について理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 訪問看護の概要と在宅看護に関わる制度	15	1 訪問看護サービスのしくみと提供 1)訪問看護とは 2)訪問看護の創設と発展の経緯・現状 3)訪問看護制度(在宅看護に関わる制度とその活用) 4)訪問看護ステーションのしくみ (1) 開設基準と従事者 (2) 法に基づく訪問看護事業 (3) 訪問看護利用までの流れと費用 (4) 訪問看護サービス提供
2 訪問看護の対象への看護の実際	10	1 訪問看護の対象の特徴 1)対象の多様性 2)対象の個別性を尊重した看護 2 家族への支援 1)家族を支援する基本的姿勢 2)療養の場における家族の捉え方 3)在宅療養者と家族への看護
3 居宅におけるケアマネジメントと社会資源の活用	4	1 居宅におけるマネジメントとその実際 2 社会資源の活用の実際
	1	試験

評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次

目的: 在宅看護における援助を実践するための基礎的知識と技術を習得する。
目標: 1 在宅看護活動に必要なコミュニケーション技術が理解できる。
2 在宅看護に必要な看護技術を理解し、基本技術ができる。
3 対象者の病状経過の予測や予防的支援に関する基本的技術ができる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 在宅で求められる看護技術	29	1 在宅看護活動を支えるコミュニケーション 1) 訪問看護におけるマナー 2) セルフケアを支える対話 2 在宅看護に必要な病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) フィジカルエグザミネーション 3) 健康行動理論・セルフケア理論の活用 3 呼吸・循環に関する在宅看護技術 1) 呼吸・循環のアセスメントと援助 2) 在宅酸素療法(HOT) 3) 人工呼吸療法(NPPV・HMV) 4 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 1) 食生活・嚥下のアセスメントと援助 2) 経管栄養法(経鼻・胃瘻) 3) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 5 排泄に関する在宅看護技術 1) 排泄のアセスメントと援助 2) おむつ交換・摘便 ※1 3) 膀胱留置カテーテル 4) ストーマ管理 6 移動・移乗に関する在宅看護技術 1) 在宅での移動・移乗に関するアセスメントと援助 2) 福祉用具の活用 7 清潔・衣生活に関するアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメントと援助 2) 入浴・清拭 3) 褥瘡の予防とケア 8 疼痛緩和に関するアセスメントと援助 1) 苦痛と安楽のアセスメント 2) 苦痛・安楽への援助
	1	試験

評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項	予習復習をして臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。
備 考	※1 は演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次

目的:看護の介入時期と看護の継続性について学び、在宅看護における対象別看護の特徴を理解する。
目標: 1 在宅看護介入の目的と方法特徴について理解できる。
2 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。
3 訪問看護における看護過程の特徴が理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 地域・在宅における時期別の看護	10	1 病状経過の時期別に応じた看護と継続性 1) 健康な時期 2) 外来受診期 3) 入院時 4) 在宅療養準備期 5) 在宅療養移行期 6) 在宅療養安定期 7) 急性憎悪期 8) 終末期(グリーフケアを含む)
2 対象に応じた在宅看護(事例)	8	1 医療的ケア児への看護 2 精神疾患の療養者への看護 3 難病(ALS)を持つ療養者への看護 4 独居の療養者への看護
3 訪問看護を利用する対象者の看護過程	11	1 訪問看護の看護過程の展開 ※1 1) 看護過程展開の特徴 2) ICF の概念 3) 訪問看護利用者の全体像の把握と臨床判断能力
	1	試験

評価方法	筆記試験、レポート
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス 必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	※1 は演習を行う。 単元3 訪問看護の看護過程の展開では、実際に訪問する場面でのコミュニケーションや援助を通して、訪問看護における臨床判断能力や意図的な観察の必要性が理解できるよう、グループに分かれてロールプレイを行う。